

令和元年度 西が岡小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の教育を基盤に自ら学び，自ら考え，主体的に判断して生きていくことのできる，心身ともに健康で，心豊かな，たくましい児童を育成する。

【1】明るく元気な子ども 【2】よく考えて学習する子ども 【3】心豊かで思いやりのある子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

教育目標の達成を目指し，子どもの自主性を育て，希望に満ちた明るく，楽しい学校づくりをするために，全職員が和と協力，熱意，そして人間尊重の精神を基盤に『生きる力』を育む教育に取組み，活力に満ちた特色ある学校経営を推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 一人一人のもつよさや特性を認め，自信と意欲を育む居がいのある学校・学級づくり，自主性を育てる教育活動の展開に努める。
(学級経営の充実)
- (2) 学ぶことの意義を明確にするとともに授業の充実を図り，学ぶことの楽しさや成就感を体感させ，自ら学ぶ態度の育成と基礎・基本の確実な定着に努める。
(学習指導の充実)
- (3) 情操豊かな教育環境と道德教育の充実を図り，「生命や人権を大切にする心」「思いやりの心」を育み，心豊かでたくましい子どもの育成に努める。
(心の教育の推進)
- (4) 全教職員の共通理解のもと，児童理解及び保護者との情報共有に努めることで，児童・保護者との信頼関係を深め，規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立に努める。
(児童指導の充実)
- (5) 進んで運動に親しむ体育指導と，健やかな体を育む食育・保健指導の充実を図り，健康・体力の向上に努める。
(体力の向上と保健安全教育・食育の充実)
- (6) 学校園として認め励ます指導を通して自尊感情を育み，学習や活動の交流を図り，小中一貫教育を推進する。
(小中一貫教育の推進)
- (7) 根拠を明確にして主体的に考え行動する教職員，頭と心で考え行動できる子どもの育成に努める。
(人づくりの推進)
- (8) 常に自己の資質向上に努めるとともに，コンプライアンス及びアカウンタビリティを意識し，子どもや保護者から信頼される教職員集団を目指す。
(教職員の資質の向上)
- (9) 家庭や地域との連携と情報発信の充実に努め，地域とともにある学校づくりの推進に努める。
(地域とともにある学校づくり)
- (10) 教育の重点化，ICTの活用，協働体制の確立，学級経営力の向上，報・連・相体制の徹底，出退勤時刻の管理等により教育の効率化を図り，教職員の働き方改革を推進する。
(教職員の働き方)

【宝木地域学校園教育ビジョン】 「いきいき宝木」心豊かな宝木っ子の育成を目指して

豊かな心の育成	・規範意識と自尊感情の育成
	・生命を尊重し相手を思いやる態度の育成
	・自然，文化，芸術に親しむ感性の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法，教育基本法，学校教育法，同施行規則，新小学校学習指導要領等の法令並びに栃木県教育委員会の方針「とちぎ教育振興ビジョン」，宇都宮市教育委員会の学校教育の重点「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」の示すところに従い公教育の立場を堅持し，本校の教育目標達成のため，調和と統一ある教育課程を編成する。
- (2) 人間性豊かな全人的人間形成を目指すために各教科，特別な教科道德，外国語活動，総合的な学習の時間，特別活動の有機的関連を図り，各領域がそれぞれ充実した調和と統一ある教育課程を編成する。
- (3) 児童の発達段階や個々の児童の特性，学校や学年の特性について十分配慮して編成する。
- (4) 本年度の学校教育目標・学校経営の方針を踏まえ，更に児童や地域の実態を考慮して編成する。
- (5) 各教科，特別な教科道德，外国語活動，総合的な学習の時間，特別活動のほか，保健指導・体力増強（元氣

アップ教育), 給食指導, 安全教育, 人権教育, 宮っ子心の教育, 学校図書館教育, 環境教育, 特別支援教育, 国際理解教育, 福祉教育, 情報・メディア教育, 宮・未来キャリア教育, 児童指導等を計画的に指導できるように考慮して編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

落ち着いた学校生活のもと、縦割り班活動を中心とした体験活動や道德教育、読書活動などを通して豊かな心と自主性を育み、特別支援教育の視点を取入れた分かる授業の充実を図り、学ぶことの楽しさを実感する教育の推進に努める。

教職員の出退勤時刻の把握と管理、積極的なICTの活用による教材の共有化、教育の重点化などの取組により、教職員の勤務時間を意識した働き方の推進に努める

【学 習 指 導】

児童の実態（学習内容定着度、特性等）を踏まえた分かる授業を展開し学習意欲の向上に努めるとともに、家庭学習の習慣化を図り学習の定着に努める。

【児 童 生 徒 指 導】

○ 道德教育や学級経営の充実を図り、具体的な活動を通して「明るいあいさつ」「正しい言葉遣い」「決まりを守る態度」の育成に努める。

【健康（体力・保健・食・安全）】

体育、保健、食育指導の連携をもとに、自己の生活習慣（保健安全・食習慣・体力）を意識できる児童の育成に努める。

【教育の効率化】

教育の重点化、ICTの活用、協働体制の確立、教職員の勤務時間の管理により教育の効率化を図り、働き方改革を進める。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童85%以上	① がんばりカードや音読カードを活用し、自分の学習を振り返ることができるようにする。 ② 「聞き方・話し方・姿勢」を掲示し、意識付けを図る。 ③ 「家庭学習のすすめ」を自主学習ノートに貼り、それを見ながらどんな内容にするかを自分で決めて、進んで学習できるようにする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が92.7%で目標を達成している。 ・児童は、授業に真剣に取り組み、話をしっかりと聞いたり発表したりすることができた。 ・進んで学習に取り組めるように、体験的な学習を重視するとともに、ペア学習やグループ活動を積極的に取り入れたことで、よい結果が出ている。 【次年度の方針】 ・次年度も引き続き、体験的な学習を重視し、ペア学習やグループ活動を積極的に取り入れていく。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」の肯定的な回答 ⇒教職員85%以上	① 体験活動と関連を図った道德や総合的な学習の時間の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や思いやる心などを涵養する。 ② 豊かな感性の育成を目指した読書活動を推進する。 ・ボランティアによる読み聞かせ ・読書週間の活用 ③ 異学年の交流活動を上級生がリーダーになって主体的に行い、思いやりの心	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%で目標を達成している。 ・縦割り班活動を通して、上級生が下級生に対して優しく接し、思いやりの心が育っている。 ・道德や総合的な学習の時間の授業を中心に、生命や人権を尊重する思いやりの心を育んできた。 【次年度の方針】

す 児 童 の 姿		を育てる。 ④ 「命の授業」や「人権の授業」を授業参観等で公開したり、親子学習で取り上げたりして、保護者への啓発を行う。 ⑤ 小中連携した「宮っ子心の教育」を推進する。		・今後も授業参観等で道徳の授業を公開し、保護者への啓発を行う。 ・図書ボランティアとの連携を図り、読書活動を積極的に推進していく。 ・引き続き異学年の交流活動を通して、思いやりの心を育てていく。
	A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って、生活している。」の肯定的回答 ⇒児童80%以上	① 全職員の共通理解のもと、朝会・全校集会で全校児童に話をしたり、発達段階に応じて各学級で指導したりして、基本的生活習慣の定着を図る。 ・休み時間の過ごし方 ・授業の始まりの準備 ② 「よい子の一日」の周知徹底を図る。 ・廊下の歩行（教室移動時・休み時間） ・終業のあいさつと次時の準備 ・遊び方の共通理解 ・清掃中、清掃後の指導の徹底 ③ 生活目標を活用し、スモールステップで目標を達成できるようにする。 ・良かった点を朝会で称賛する。 ・児童指導主任や代表委員児童が放送等で呼びかける。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が85.4%で目標を達成している。 ・「よい子の一日」や月の生活目標を意識して生活をおくれる児童が増えてきている。 ・業間や昼休みには、教職員が交代で校庭、校舎内の巡視を行い、児童が安全に生活できるよう指導してきた。 【次年度の方針】 ・ルールやマナーの順守について、学級で友達と良かった点を認め合えるようにしていく。 ・次年度も引き続き、業間や昼休みの校庭、校舎内の巡視を行い、児童の安全指導を行う。
	A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の肯定的回答 ⇒児童85%以上	① 代表委員を中心とした、あいさつ強化週間や中学校との合同あいさつ運動を活性化し、より多くの児童が積極的に運動に参加できるようにする。 ・低・中学年の自主的な参加を推進 ② 本校のあいさつ運動を学校便りや懇談会で保護者や地域の方々に周知する。 ・家庭での習慣化 ③ 地域に向けたあいさつについて、学年に応じて、学級単位で指導を継続する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が93.9%で目標を達成している。 ・あいさつ運動や強化週間の取組により、あいさつができる児童が増えている。 【次年度の方針】 ・次年度も代表委員を中心としたあいさつ運動を継続し、学校全体のあいさつを活性化していく。 ・登下校指導の際、自発的に挨拶ができるように指導・奨励する。
	A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童80%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 様々な授業において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が88.0%で目標を達成している。 ・学級活動や帰りの会で互いに認め合う場を設定し、多くの児童を称賛することができた。 【次年度の方針】 ・学習カードを活用して、活動の振り返りを行い、達成感を味わえるようにする。 ・今後も児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。
	A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 ⇒教職員85%以上	① 休み時間の遊び方や廊下の歩行、登下校時の歩行について、自分で考えて安全に行動できるよう日常的な安全指導に努める。 ② 生活チェックシートを活用して、担任や養護教諭、栄養士等による個別指導を充実する。 ③ 「おべんとうの日」には、栄養のバランスを配慮した献立が立てられるように、発達段階に応じて、ワークシート等を活用して支援する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%で目標を達成している。 ・児童は、校庭での遊びのルールを守って過ごしていた。しかし、廊下や登下校の歩行は、今後とも指導が必要である。 【次年度の方針】 ・学校での生活のルールについては、徹底が図れるように継続して指導していく。 ・今後も、お弁当の日は、ワークシートを活用して栄養バランスに着目した食育が進められるようにする。

A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童80%以上	① 宮・未来キャリア教育に関わる活動を生活科、総合的な学習の時間等の年計へ位置づけし、系統的に学習する。 ② 地域人材やボランティアを活用し、仕事や職業観についての話を聞く機会や体験的活動を設定して、学習や生活と職業とを関連付ける。 ・2分の1成人式（4年） ・夢いっぱい教室（6年） ・町探検（2年）	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が88.0%で目標を達成している。 【次年度の方針】 ・地域人材やボランティアを活用して、2分の1成人式、夢いっぱい教室、町探検などの活動に継続して取り組んでいく。 ・児童の様子について、随時、学校・学年便り、ホームページ等で知らせていく。
A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」における肯定的回答 ⇒教職員80%以上	① 低学年から、学級担任やALTによる指導を系統的に行い、コミュニケーション能力の育成を図る。 ② 職員研修で英語の教材開発やICTを活用した指導法の工夫や改善などを行い、授業力の向上を図る。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%で目標を達成している。 ・英語の学習に意欲的に取り組み、進んで英語で話そうとする児童が多い。 【次年度の方針】 ・引き続き、学級担任やALTによる指導を系統的に行っていく。 ・校外学習や修学旅行で、訪日外国人と英語での交流活動を行っていく。
A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」における肯定的回答 ⇒児童80%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が79.0%で目標を達成していない。 ・各教科や総合的な学習の時間、校外学習等で、身近な地域や宇都宮市の良さに気付くよう働きかけてきた。 【次年度の方針】 ・社会科や総合的な学習の時間に、「宇都宮学」を年間指導計画に沿って継続して学習することで、宇都宮の良さに目を向けられるようにする。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」における肯定的回答 ⇒児童85%以上	① 児童が授業においてICT機器や図書資料を活用して、情報を収集・整理・発信する活動を充実させ、それらを活用する能力の育成を図る。 ② 図書館の環境整備に努め、授業に関連する図書資料を計画的に準備し、国語の教材や総合的な学習の時間の調べ学習等に役立てる。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が78.7%で目標を達成していない。 ・ICT機器や図書資料を活用する授業を行ってきた。 【次年度の方針】 ・ICT機器が更新されることを受け、教師自身が使い方や機能について学び、授業での効果的な活用ができるようにする。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」における肯定的回答 ⇒児童85%以上 ⇒教職員85%以上	① 体験活動と関連を図った総合的な学習の時間や道徳科の授業を実施し、高齢者に対する感謝やいたわりの心を涵養する。 ② 運動会に高齢者（宝木荘を含む）を招待し、来校された方に感謝の言葉を贈ったり、交流種目を設けたりする。 ③ 宝木荘の高齢者との交流活動を年計に位置付け、計画的に実践する。 ・宝木荘訪問（1、4年）	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が91.0%で目標を達成している。また、教職員の肯定的回答も100%で目標を達成している。 ・児童は、高齢者との交流活動を体験し、感謝やいたわりの気持ちが育っている。 【次年度の方針】 ・今後も体験活動と関連を図った総合的な学習の時間や道徳科の授業を実施する。 ・宝木荘の高齢者との交流活動を年計に位置付け、計画的に実践する。

目 指 す 学 校 の 姿	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」における肯定的回答 ⇒教職員85%以上	① 各教科・総合的な学習の時間等の環境教育を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ② 過去の災害の具体事例から学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が60.0%で目標を達成していない。 ・環境教育や防災教育を実施しているが、「持続可能な社会」についての指導が不十分であった。 【次年度の方針】 ・環境教育について、系統的に取り組めるよう年計を見直し、明確に位置づける。 ・教職員が「持続可能な社会」についての研修を行い、理解を深め、指導力の向上に努める。
	B1 児童は、授業で習ったことを復習するなど、自主学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業で習ったことを復習するなど、自主的な学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童80%以上	① 西が岡小「家庭学習のすすめ」を活用し、学年に応じた家庭学習の習慣化を図る。 ・音読と個に応じた宿題の徹底 ・発達段階や個に応じた自主学習の進め方の指導 ・家庭学習の時間・やり方・内容の提示 ・学級懇談等での保護者への啓発 ② 自主学習の例を掲示して、よい取組を児童や保護者に知らせていく。 ・昇降口前の掲示（学習チャレンジ週間） ・終わったノートの教室掲示 ・リレー自主学習（全学年）	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答が81.0%で目標を達成している。 ・リレー自主学習や友達の自主学習ノートを参考にして、工夫して自主学習に取り組む児童が増えてきた。 【次年度の方針】 ・引き続き、参考となる自主学習ノートを例示する機会を設け、児童や保護者に啓発していく。 ・次年度も、全学年で「リレー自主学習」を行うようにする。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 ⇒教職員85%以上	① 校内支援会議を計画的、または必要に応じて開き、個に応じた具体的な支援について協議し、共有して組織的な体制で対応する。 ② かがやきルーム支援員と、日常的に情報交換を行い、児童の状況把握をして、学級での指導に生かしていく。 ③ SCや他の外部機関と連携し合って、個に応じたよりよい支援の在り方について考え、指導に生かしていく。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%で目標を達成している。 ・全職員で協力して、児童の実態に応じて組織的な体制で対応し、適切な支援をすることができた。 【次年度の方針】 ・次年度も、校内支援会議の実施、かがやきルーム支援員との日常的な情報交換、SCや他の外部機関との連携等を行い、特別な支援を必要とする児童への適切な支援をしていく。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上	① 教育相談を年間2回実施し、児童の実態の把握と早期発見に努める。 ② 人権週間、いじめゼロ月間、いじめゼロ集会を実施するとともに、保護者にも公開し啓発に努める。 ③ いじめ防止に関する資料や学校での取組を、懇談会や学校便り、HPなどで地域や保護者に積極的に発信する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答が97.7%で目標を達成している。 ・いじめ防止対策の取組について、保護者へ、随時周知する必要があった。 【次年度の方針】 ・次年度も教育相談や人権週間、いじめゼロ月間、いじめゼロ集会を実施する。 ・いじめ防止に関する資料や学校での取組を、学校便りやホームページ等で保護者や地域に積極的に発信する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切	① 児童の自己肯定感や安心感が高められるよう教師の言葉がけや雰囲気作りに努める。 ・ソーシャルスキル ・エンカウンター 等 ② 職員会議後に不登校対策やいじめ対策を兼ねて、児童指導について情報交換	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答が96.5%で目標を達成している。 ・児童指導についての情報交換を行い、教職員は共通理解のもと、適切な学級経営を行っている。 【次年度の方針】

	にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくっている。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上	会を実施し、全職員が情報を共有する。 ③ 家庭訪問を通じた積極的な支援と働きかけを行う。		・教育相談や学校生活アンケートの結果を生かしていじめの早期発見に努め、早期解決につなげる。 ・職員会議での児童指導情報交換会において全職員で情報共有を図る。 ・状況に応じては積極的な別室登校を推進し、家庭や児童への支援や働きかけを継続していく。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 ⇒教職員85%以上	① 外国人児童について教職員で共通理解を図り、必要な支援を組織的に行う。 ② 児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。 ③ 外国人児童の実態や家庭環境に応じた日本語指導教師の活用を行う。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%で目標を達成している。 ・特別な支援を必要とする児童に対して、適切な支援を行っている。 【次年度の方針】 ・特別な支援を必要とする児童について、教職員で共通理解を図り、必要な支援を組織的に行う。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上	① 学校行事や児童会活動に児童が主体的に取り組む場を設定し、適切な指導・支援・助言をすることにより、児童の達成感・自己肯定感を高める。 ② ペア学習やグループ学習などの多様な学習形態を取り入れたり、体験的活動の場を設定したりして、児童の意欲を高める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が92.4%で目標を達成している。 ・学校行事や児童会活動を通して、児童の達成感や自己肯定感がおおむね高まってきている。 【次年度の方針】 ・今後も児童の意欲を高められるような活動の場を設けていく。
	A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上	① 全職員共通理解のもと今年度の学校課題の研究を進める。 ② 授業研究を行い、指導方法の工夫・改善や指導力の向上を図り、きめ細かな指導を実施する。 ・一人一授業公開 ・授業改善チェックリストの活用 ・ヒントカードや教材提示の工夫 ③ 具体的な学習の取組の状況や研究の様子、要請訪問などについて、学びの広場で取り上げ、学校での研究の様子を保護者に知ってもらう機会にする。 ・学習チャレンジウィークの実施 ・学びの広場の発信 ・西が岡小「家庭学習のすすめ」の配付 ④ ノートやワークテスト、プリントなどに励ましやアドバイス・コメントなどを入れ一人一人の意欲を高める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が95.9%で目標を達成している。 ・全職員が共通理解を図り、指導方法の工夫や改善に取り組んできた。 ・児童の実態に即した指導の在り方を検討し、実践することができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、一人一人に応じた分かりやすい丁寧な指導を実践していくことで、学力向上を図る。
	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における	① 学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員が相互に助け合いながら一丸となって取り組むよう努めるとともに、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気を大切にしよう。 ② 全職員が職員会議や学年会での児童の情報交換を密にし、共通理解を図る。 ③ 朝の学習や給食指導の際には、担任以外も学級支援に関わる。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%で目標を達成している。 ・保護者からは、教職員のチームワークの良さが、学校全体の明るさにつながっているという評価があった。 【次年度の方針】 ・職員会議や打合せ等で、児童の情報交換を行い、日々の支援に生かしていく。 ・朝の学習や給食指導に担任以外が加わり、

肯定的回答 ⇒教職員 80%以上			基礎的・基本的な内容の習得や給食指導の充実を図っていく。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上	① 職員研修等において働き方改革の意識付けと具体的な取組の共通理解を図り、教職員一人一人が、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② ポータルサイトや学習情報システム等を活用して、業務を効率的に遂行できるようにする。 ③ 職員会議等の協議事項を精査して時間の短縮を図ったり、学校行事等の見直しを行ったりして、学校運営の改善を行う。	A	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が92.0%で目標を達成している。 ・教職員への意識付けやリフレッシュデー、自動音声応答システム等の取組により、平日における時間外勤務が改善されつつある。 【次年度の方針】 ・リフレッシュデーの実施や自動音声応答システムの適切な運用により、勤務時間を意識した効率的な働き方に努める。 ・職員会議の時間短縮ため、協議事項は起案段階で綿密に検討する。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」における肯定的回答 ⇒保護者 80%以上	① 乗り入れ授業、教科分科会、6年生の進学先中学校訪問等を、目的を明確にして効果的に実施する。 ② 行事や児童会活動・集会活動等での交流を実施していく。 ・あいさつ運動 ・陸上合同練習 ・音楽朝会での発表 ③ 「地域学校園の日」を活用して研修や情報交換を行い、地域学校園全体での共通課題の達成を目指す。 ・宝木学校園「生活のきまり」 ・自主学习推進 ・学習のきまり	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答が87.7%で目標を達成している。 ・小学校への乗り入れ授業や6年生の中学校訪問、あいさつ運動の交流等を計画どおり実施し、児童の相互理解に効果的であった。 【次年度の方針】 ・交流の様子を学校園便りやホームページで発信し、保護者や地域に周知する。 ・地域学校園の共通課題をもとに、学習や生活のきまりの統一指導や道徳科を主軸にした心の教育の推進を図る。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① PTAや地域協議会等を活用し、各教科・領域で更に充実した体験活動を推進する。 ・ふるさと教室（昔遊び・昔の暮らし） ・読み語り（陽だまりの会・下野民話の会等） ・学習会 ・農業体験（田植え、稲刈り） ・町探検ボランティア ・ミシンボランティア 等 ② PTA学年委員や地域コーディネーターと連携して、活動内容の充実を図る。 ③ 「にじいろの会」を活用し、図書館の環境整備や本の修繕を通して、図書館経営の充実を図る。	A	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%で目標を達成している。 ・地域協議会と連携して実施した、ふるさと教室や食農体験学習（田植え・稲刈り）、学習会では、多くのボランティアの協力を得ることができた。 【次年度の方針】 ・学年で必要な支援を洗い出し、学習支援ボランティアの協力を得て、学習活動の充実を図る。 ・学校・学年便りやホームページ等で児童の活動の様子を紹介したり、ボランティアを募集したりして、保護者や地域の方の協力を促す。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」における肯定的回答 ⇒保護者 90%以上	① 全学年で行政や企業と連携した出前授業を実施し、保護者にも積極的に参観を呼びかけていく。 ・環境教育（富士重工業） ・モノづくり教室（日産） ・上下水道局 命の授業 ・薬物乱用防止 人権教室 ・リコーダー教室 歯磨き教室 等 ② 「魅力ある学校づくり地域協議会」と連携して、学校運営の充実を図る。 ・体験活動（昔遊び・昔の暮らし） ・安全ボランティア ・放課後子ども教室	A	【達成状況】 ・の肯定的回答が92.8%で目標を達成している。 ・放課後子ども教室は、多様な体験的学習活動を実施し、多くの児童が参加した。 ・毎日の安全ボランティアの活動や下校時の保護者の見守り活動により、児童は安全に登下校することができた。 【次年度の方針】 ・出前授業一覧表を作成し、親子学習との関連等を明記して、次年度の担任が活用できるようにする。 ・外部団体と連携した授業の様子は、学年だ

		③ 外部団体と連携した授業の様子は、学校便り、HP等で積極的に分かり易く家庭・地域へ情報を発信していく。		よりやホームページ等で、保護者や地域に積極的に情報発信する。 ・ホームページの作成に当たっては、目標設定や担当チームの負担分散などを十分に検討する。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 毎月、校舎内外の施設、設備等の安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症予防対策、インフルエンザ予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%で目標を達成している。 ・毎月、安全点検で危険箇所を把握し、学校業務嘱託員や機動班が迅速に修繕に当たることができた。 ・熱中症予防やインフルエンザ予防の対策が徹底していた。 【次年度の方針】 ・引渡し訓練は、保護者の参加しやすい12月の土曜授業日に設定し、全児童の引き渡しを確認する。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 児童がICT機器や図書資料を活用して、情報を収集・整理・発信する能力を育成するため、ICT機器等の積極的な活用を図る。 ② 授業に関連する図書資料を計画的に準備など、図書館の環境整備に努める。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が96.0%で目標を達成している。 ・学年ごとに教科に関連する図書資料を一括して準備し、並行読書や調べ学習に活用した。 【次年度の方針】 ・来年度導入予定のタブレットの活用について情報主任を中心に研修等を行い、教職員が授業等で活用できるようにする。 ・読み聞かせ、図書館便りを継続し、児童の読書意欲の喚起に努める。
	B2 教職員は、体力チェックや生活アンケートを実施し、健康・体力面での個別指導をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「体力チェック等を実施し、個に応じて適切に指導している。」における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	① 体力チェックや生活アンケートを実施し、個別指導に生かす。 ・外遊びの奨励と日常的な運動による体力づくり ・朝の1分間運動の実施 ・歯磨き指導 ・姿勢の改善と視力向上に関する意識づけ ② 給食・保健委員会を活用し、健康に関する児童の意識を高めていく。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%で目標を達成している。 ・朝の会での1分間運動や業間、昼休みの外遊びの奨励により、児童は運動に親しむことができた。 ・給食委員会と保健委員会で、栄養黒板の板書や歯ブラシチェック、窓開けの呼びかけ等を行い、児童に健康への意識付けを行った。 【次年度の方針】 ・業間、昼休みの外遊びを奨励や教科体育時のサーキットトレーニングにより、日常的に運動に親しませ、体力の向上を図る。 ・ランチルームを活用し、栄養士による栄養指導の充実を図る。
本校の特色・課題等	B3 縦割り班活動を積極的に行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「縦割り班活動を積極的に行っている。」の肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	① 異学年の交流活動を上級生がリーダーになって主体的に行い、思いやりの心を育てる。 ・たて割り班による花はなタイム ・新体力テスト ・遊友タイム ・読み聞かせ ・お弁当の日 ・清掃活動 等 ② 班対抗のゲームや活動を取り入れて、継続的に高学年がリーダーとなる場づくりを推奨する。 ・遊友タイム ・運動会 ・企画委員会との連携	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%で目標を達成している。 ・縦割り班をベースとした清掃活動や新体力テストなどが実施され、児童同士が助け合う姿が数多く見られた 【次年度の方針】 ・継続的に高学年がリーダーとなる場を設けることで、充実した活動ができるようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では教育目標の具現化に向け、今年度の重点目標、具体的な取組を設定し、特色ある教育活動に取り組んできた。

今年度の学校マネジメントの全体アンケートの結果を見ると、28評価項目のうち25項目で目標数値指標を上回ることができた。また、市全体と本校児童の肯定的回答を比較すると、20項目のうち11項目で上回っている。全体的に、児童は、きまりを守り、落ち着きのある生活を送っている。また、学習にも熱心に取り組んでいる様子が見受けられる。

【学校運営に関連する評価について】

- ・「縦割り班活動を積極的に行っている。」「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」等の項目で、目標数値指標を上回っており、肯定的な評価であった。引き続き、縦割り班活動や道徳教育の充実を図り、豊かな心を育てていきたい。

【学習指導に関連する評価について】

- ・「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」等の項目で、目標数値指標を上回っており、教職員の熱心な取組が評価されていると思われる。一方、「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」では、教職員の肯定的回答が60%と目標数値指標を下回った。また、児童の肯定回答も83.1%にとどまっている。教職員は、児童の発達段階に応じて教材分析や教材開発、授業づくりを行い、児童が持続可能な社会づくりの見方・考え方ができるように指導改善を図ってきたい。

【児童生徒指導に関連する評価について】

- ・「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」それぞれ、児童の肯定的回答が93.9%、96.5%、97.7%と目標数値指標を上回っている。今後とも、道徳教育や個に目を向けた学級経営の充実、教育相談を活用したいいじめ防止について継続して取り組んでいきたい。
- 「小中一貫した取り組み」については、保護者の肯定的回答が87.7%であり、目標数値指標を上回っている。今後とも、共通課題の達成に向けた取組を継続するとともに、活動を精選し質を高めていきたい。

【健康（体力・保健・食・安全）に関連する評価について】

- ・「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」「体力チェック等を実施し、個に応じて適切に指導している。」等の項目で、目標数値指標を上回っており、肯定的な評価であった。今後とも、体力チェックや生活アンケートの結果をもとに個別指導を充実し、児童の健康への意識を高めていきたい。

【教育の効率化に関連する評価について】

- ・「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」の項目で、教職員の肯定的回答が目標数値指標を上回り、働き方改革の取組が着実に進んでいる。引き続き、教職員への意識付けと具体的な取組の共通理解を図り、業務の効率化に努めていきたい。

7 学校関係者評価

- ・「思いやり」について、地域の肯定的回答が低かったのは、しっかりと児童と接し、より良い児童に育てたいという思いから、まじめに評価した結果のあらわれだと思われる。今後とも、児童の思いやりの心を育てるため、地域の大人が、登下校の見守り活動や授業支援、放課後子ども教室等で、児童の良いところを見付け、良さを認め、ほめて伸ばすように心がけていきたい。
- ・「あいさつ」について、よくできる児童はいるが、なかなかできない児童もいるのが現状で、今後とも、地域の大人や教職員、保護者が、児童の模範となって元気なあいさつを実践していくこと大切である。
- ・休日や放課後に自転車のヘルメットをかぶっていない児童を見かける。地域によっては、声掛けによりヘルメットをかぶるようになった。学校と家庭が連携して「5時・ヘル・防」の指導を徹底してほしい。
- ・地域の子どもみらい応援隊が主催する学習支援「子ども塾」は、施設や病院の協力を得て、月2回程度、定期的に開催することができるようになった。本校児童も数名の参加が見られる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・全体として、ほとんどの項目で目標数値指標を上回り、市内小学校の平均と比較しても良い評価を得ることができた。
- ・思いやりの心を育てていくためにも、縦割り班活動や認め励ます指導の更なる充実を図り、児童の自己肯定感を高めていく。
- ・児童は、授業への学習意欲や家庭学習の意識が高まってきている。継続して基礎・基本の定着や思考力の向上を目指し、教師の授業力向上に努める。また、今後一層家庭との連携を進め、家庭学習の充実を図る。
- きまりやマナーを守った生活や言葉遣い、あいさつについては、学校と家庭、地域が連携しながら児童の健全な育成に努めていく。特に、あいさつについては、教職員が手本となるように取り組むなど、効果的な手立てを工夫していく。
- ・いじめ対策については、今年度の取り組みを継続するとともに アンケートの結果を蓄積し、常にいじめの未然防止や問題の早期発見・解決に努める。また、日常的・重点的な児童指導について情報発信や学校公開、ボランティア受け入れ等を通して地域や保護者とともに児童の姿を共有し豊かな心の醸成を図っていく。